

インドの州森林・環境大臣一行が治山事業地を視察



同州では、2013年6月に豪雨による大規模な洪水と土砂崩れで、約6千人もの死者・行方不明者が発生しました。大井川上流域は、ヒマラヤ山系に近いウッタラカンド州と山の成り立ちが似ており、急峻で崩れやすい地質で行われている治山技術をインドでも活かそうと、施工方法やその効果を見学されました。



2017年9月6日、7日インド北部にあるウッタラカンド州のハラク・シン・クワット森林・環境大臣及び森林局職員4名が大井川流域の治山工事現場を視察に来られました。



当日はあいにくの天気でしたが、センター職員から写真や図面により説明を受け理解が深まったようで、具体的な工事についての質問も飛び交いました。

現在同州では、国際協力機構（JICA）の支援を受けて治山技術を活用した山地災害対策プロジェクトが行われているところですが、これから技術普及・開発の専門機関を立ち上げるとのことで、少しでもそのお役に立てればと思います。



また11月には、JICAによる実務担当職員及び技術者を対象とした研修も企画されており、再び治山センターの現場視察に訪れる予定です。



安全対策についても確認



プロジェクトの成功をお祈りしています。

